

～郷土かるたで故郷発見～

諏訪のいろはかるた(8)

全国各地に存在する郷土かるた。多くは絶版となり現在では入手が困難です。ふるさと財団「諏訪いろはかるた(信濃文化研究会作成)」に詠われたかるたを紹介します。



け 蹴飛ばされ高嶺八つの八ヶ岳

富士山がまだ火を噴いているころの話であった。富士山の女神木花咲耶姫命と八ヶ岳の女神磐長姫命とがその高さを争った。木花咲耶姫は「もちろん私の方が高い」といい、磐長姫も負けまいと「私の方が高い」といった。二人が言い争っても科学的で、両方の山の頂に長い樋を渡し、その樋に水を注ぐ方法であった。どちらが高いかがすぐ分かる。注いだ水は、富士山の方に流れて太平洋に落ちて行った。負けて怒ったのは富士山であった。「そんなばかなことがあるもんか」と、やにわに足を上げて八ヶ岳の頭を蹴飛ばした。格好のよかった八ヶ岳は、轟音をたてて崩れて八つ裂きになってしまった。富士の裾野は広大であるが、よく見ると八ヶ岳はなお雄大である。ひよっとすると昔の人は八ヶ岳は富士山より高かったと信じていたのかも知れない。



ふ 富岳三十六景北斎も描く諏訪の湖

こうと、小川村の文化人武井見龍の家に泊まって、何日も何日も湖岸をさまよったが、遂に逆さ富士は見られなかったという。それにしても弁天島の風景を残してくれたことは諏訪の歴史を知るのには有難いことである。北斎はこの外に「富士百景」があって、その中に「信州八ヶ岳の不二」がある。富士山とは遠くへだたりのある諏訪湖であるが、その遠望の景色は旅人たちの心を強く引いたのであるうか。風景版画の題材になって、広重の「不二三十六景信州諏訪湖」など世に知られた名画がある。



版画で見る「御柱祭」

協力：下諏訪版画友の会



今年1年誌面を飾った「暦カレンダー」。ふるさとを再発見しました。

初冬飾るリンドウ(晩信濃)



今井 満行さん 栽培



1月の暦 筒粥神事
柴田吉郎 作



お騎馬



山出し



綱打ち



長持ち



木遣り



木落し

今月のおすすめ本

それほんとう?



松岡 享子 著

同じ文字から始まる言葉ばかり使ってなんともナンセンスなお話を作っちゃいました! 例えば「あめりかうまれのありのありさん」や「うまれつきうっかりものうみぼうず」や「すこぶるすてきなすもうとり」が、さあどうする!?どこから読んでも楽しい言葉の大行列。長らく絶版でしたが、この度さらに読みやすくなって新登場! 思わず「それほんとう?」と言いたくなりますよ! 言葉遊びの世界をたっぷりお楽しみください。(宮坂昭子)

ぼくの生物学講義



日高 敏隆 著

人間は赤ちゃんを産んでお乳で育てますから、哺乳類ですね。つまりケモノ。ケモノとは毛の生えた生き物、しかし人間には毛がない。しかも哺乳類なのに直立二足歩行をしている。普通は四つん這いののにわざわざ二本足で立ち、エコーミー症候群やヘルニア高血圧を引き起こしている。唯一言語を持ち、文化・思想を持ち合わせた人間は、いったいどんな動物なんだろう? 動物行動学者である日高教授の最後で最高の講義録! (島田博子)